

10-1 中学校 1年生社会科[地理的分野] 指導事例
「南アメリカ州 アマゾンの森林開発と環境保全」

【単元目標】

- ・世界の各州に暮らす人々の生活を追究することにより、我が国の国土に対する認識を深める。
- ・アマゾンの森林破壊の実態や環境保全に対する人々の意識や政策を取り上げることを通して、「環境と開発の両立」や「環境保護における矛盾や葛藤」について考え、持続可能な社会を目指すことの大切さに気付く。

【目指す子どもの姿】

- ・学習課題の解決に向け、調べたことを根拠にしながら自分の考えをつくり、他者との話し合いにより、自分の意思を決定していく姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全6時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>資源が豊富な南アメリカ州について知ろう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と南アメリカ州との関わりについて知る。 S：日常生活で使う金属などの資源は南アメリカ産が多い。 S：アマゾンでつくられる酸素は地球規模で影響を与えているらしい。 ・地図帳を見て資源を探す。 S：アンデス山脈やアマゾンの森林地帯に資源が多い。 	<p>興味をもつ</p>
<p>アマゾンの開発の実情について調べよう②(授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゾンの開発は人々を幸せにしていると言えるのか考える。 S：アマゾンの開発により、資源を世界中に輸出しているのだから、人々にとってよいことだと思う。 S：自然を大規模に破壊しているのは事実なので、地球全体から考えるとマイナスなことが多いと言えるのではないか。 	
<p>サトウキビの栽培は環境によいのか考えよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物からできるバイオエタノールは環境問題を解決するのか考える。 S：サトウキビからできるバイオエタノールはクリーンなエネルギーだからアマゾンでも積極的に栽培するべきだ。 S：結局、環境を守るという動きが、商売の目的となってしまう、逆にアマゾンの環境を壊す原因になるのはおかしい。 	<p>多面的・多角的に考える</p>
<p>これから私たちにできることについて考える①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かし、これから私たちができることを考える。 S：日本に暮らす私たちも、環境と開発の両立についてもっと考えるべきだ。 S：身近な環境保護について、もっと目を向けていかないといけない。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

「自分のこと」としてとらえさせるために学習問題の設定を工夫しましょう。

世界各州の学習では、単なる知識を身に付ける学習で終わらないようにする工夫が必要です。「普段の生活をよりよいものにするためには、どうすればよいのか」というように自分のこととして課題意識をもたせ、日本と世界各地とのつながりを考えられる単元構想に努めましょう。

ポイント2

課題について、多面的・多角的に情報を収集したり、考えたり、判断したりしましょう。

公正に思考・判断する力をつけていくためには、根拠のない思い込みや、ひとりよがりな考えでものごとをとらえさせるのではなく、確かな情報を調べ、多面的・多角的にとらえさせることが必要です。

学習展開例（第2、3時）

T：「アマゾンの開発を進めてメリットがある人はだれだろう。」

S：「資源を海外に輸出する人と、その資源を使う私たちだと思います。」

S：「アマゾンに暮らす人たちも仕事ができるからメリットがあるのでは…」

T：「では、メリットがなくなると思われる人たちはどうだろう」

S：「森林が破壊されて環境が悪くなるんだから、地域の人はメリットがあるとは言えない」

S：「環境が破壊されることによって、私たちも影響を受けるんだから世界的にもあまりよくないと思う」

T：「**同じ立場でも判断が難しいし、違う立場によっても見方が変わってきますね。実際にデータなどを調べてから、もう一度考えていきましょう。」**

※この単元では、多面的とは、自然環境の面、産業（第一次産業、第二次産業、第三次産業）の面、生活・文化の面などからの見方を言い、多角的とは、展開例のようにそこに関わる人々の立場からの見方を指します。

ポイント3

学習していく過程で対立から合意形成へのプロセスを体験させましょう。

この単元では、「環境と開発という対立」、「関わる人たちの立場による対立」をあげて、よりよい社会を構想していくためにはどのような解決があるのかを考えさせることに努めましょう。また、サトウキビ栽培の学習問題のように、葛藤が生まれる課題を設定するとよいでしょう。

意見が対立する場合は、生徒の考えを賛成と反対に分けたり、生徒の発言を分析しながら板書したりするなどして、一人ひとりの考えが教室内で分かるように視覚化すると、その中庸の意見が生まれたり、新たな意見が出たりして合意形成へプロセスを示すことができるでしょう。